

令和7年度

福祉体験学習

～みんなでつくる やさしさあふれるまち～



げんきくん

こころちゃん

福祉体験学習は、年齢、性別、個人の能力差、国籍など、さまざまな特性や違いを超えて、すべての人に配慮したまちづくり、ものづくりなどを行う考え方を学ぶ福祉の話(ユニバーサルデザイン含む)を軸に、各種体験学習を実施します。

伊勢市ボランティアセンターでは、各種体験学習を通して、自分たちに何ができるのか、これから自分たちの活動について考えるきっかけをつくるお手伝いをします。ぜひ、ご活用ください。

伊勢市ボランティアセンター

目 次



福祉体験学習時のお願い	P1
福祉体験学習のご利用方法	P2・3
福祉体験学習メニュー	
(1) 福祉の話(ユニバーサルデザイン含む)	P4
(2) ボランティアの話	P4
(3) 高齢者疑似体験及び介助体験	P5
(4) 妊婦体験及び介助体験	P5
(5) 車いす体験及び介助体験	P6
(6) 出前講座「明日からできる車いすの使い方」	P6
(7) 視覚障がい者の理解(アイマスク体験及び介助体験)	P7
(8) 当事者による講話(視覚・聴覚)	P7
(9) 福祉車両の使い方講座	P8
(10) 福祉の仕事学習セミナー	P8
(11) 福祉の仕事、見て学ぼう！(福祉施設の見学)	P9
(12) 障がい者サポーター研修・簡単な手話体験	P9
(13) フリースペース(憩いの場)で交流しよう！	P10
(14) SDGsから考える伊勢の未来	P10
～今、自分たちにできることを考えよう～	
(15) 認知症サポーター養成講座・認知症キッズサポーター養成講座	P11
(16) 命の授業	P11

福祉体験学習時のお願い



福祉体験学習は、当事者への理解を深める効果的な学習です。しかし、目的をどのように設定するのかで意味合いは大きく変わり、例えば「車いす体験」では、単に車いすの押し方など操作を学ぶことだけが目的ではなく、その操作方法を学ぶことで、障がいのある方の生き方にふれることや、やさしい心を育てる事にもつながります。

福祉体験学習は、このような目的を達成するための手段であって、福祉体験学習自体が目的ではないこと、そして本来の目的を達成するうえで、当事者の方からお話を聞くことも重要だと考えています。ぜひそのような視点で福祉体験学習をご活用いただければ幸いです。

(1)～(16)の体験メニューがございますが、そのほかに「こんなテーマでやってほしい」など、何かご要望がございましたら、お気軽に伊勢市ボランティアセンターまでお問い合わせください。



福祉体験学習のご利用方法



〔対象〕

伊勢市内の福祉協力校(小学校・中学校・高等学校)、専門学校、大学、企業・事業所等

〔申し込み期間〕

通年

※事前相談・打合せ後、福祉体験学習講師派遣依頼 兼 物品借用書を、実施日の1ヵ月前までに伊勢市ボランティアセンターへご提出ください。

〔受講料〕

無料

※(8)当事者による講話(視覚・聴覚)については、外部講師に依頼することになりますので、講師謝礼・材料費などの費用が必要です。講師謝礼・材料費は、福祉協力校助成金が利用できます。

[申し込みから実施までの流れ]

① 事前相談

伊勢市ボランティアセンターに、希望する学習内容や実施日時をご相談ください。

伊勢市ボランティアセンター

伊勢市八日市場町 13-1 伊勢市社会福祉協議会 福祉センター1階

TEL 0596-63-6370 FAX 0596-27-2415

E-mail ise-vc@mie.email.ne.jp



② 打合せ

担当職員が福祉体験学習実施場所にお伺いし、打合せを行います。



③ 福祉体験学習講師派遣依頼 兼 物品借用書の提出

福祉体験学習実施日の1ヵ月前までに、伊勢市ボランティアセンターへご提出ください。



④ 福祉体験学習の実施

福祉体験学習のさらなる充実のため、体験いただいたご感想や学習内容に関するご意見等をお聞かせいただけますと幸いです。

(1) 福祉の話(ユニバーサルデザイン含む)

「ふくし」とはどういうものか、身近な福祉を知る入口としてユニバーサルデザインの話を交えながら講話をします。そして、普段の生活について改めて考え方とともに、相手を思いやる気持ち「心のバリアフリー」へつなげます。

[対象] 小学3年生以上

[体験項目]

- ・「ふくし」ってなあに？
- ・ユニバーサルデザインにふれる
- ・各種体験の事前学習



誰もが持ちやすく工夫されたハサミ

(2) ボランティアの話

「ボランティア」とはどういうものか、これからボランティア活動を始めようとする人やボランティアに関心のある人に、自分に合ったボランティアを見つけてもらうことを目的に講話をします。ボランティアの定義や歴史、実際の活動内容をご紹介します。

[対象] 小学4年生以上

[体験項目]

- ・はじめてみようボランティア



(3) 高齢者疑似体験及び介助体験

高齢者体験装具を装着し、体の重さ、肘や膝の動きにくさのほか、白内障とほぼ同じように見えるメガネを使って、目の衰えを体験します。

そして、加齢に伴う筋力低下や視力障がいを体験することで、高齢者の体を理解し、自分たちにどのようなサポートができるのかを考えるきっかけとします。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・階段の昇降
- ・校内を歩く(段差やトイレ、出入口等)
- ・校内の掲示物等を見て、どのように見えるかを確かめる



(4) 妊婦体験及び介助体験

体験グッズを用いて、腰やお腹の身体状況等、妊婦の特徴を理解し、学校や地域で一人ひとりがどのように妊婦と接していくべきかを考えるきっかけとします。

〔対象〕 中学生以上

〔体験項目〕

- ・校内を歩く(段差やトイレ、出入口等)
- ・起き上がり体験



(5) 車いす体験及び介助体験

車いすの説明をしたあとに、実際に車いすに乗って自走や段差などを体験します。また、車いすを押す介助体験を通して、車いすのサポート方法を学びます。自走と介助の双方を体験することで、車いすを使用している人の気持ちを理解し、バリアフリーや自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとします。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・車いすのたたみ方、ひろげ方
- ・車いすの押し方(適切な声かけ)
- ・ブレーキの操作方法、段差や溝の越え方、
坂道の上り下りなど



(6) 出前講座「明日からできる車いすの使い方」

ショッピングモールや病院で見かける車いすの使用方法について、福祉用具レンタル事業所スタッフがわかりやすく説明します。専門のスタッフからの指導により、実際に車いすを使ってみることで、車いすの種類や操作方法を学びます。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・車いすの種類などの知識
- ・車いすの基本的な操作方法



協力 伊勢市ボランティアセンター 地域貢献登録企業 株式会社グッド・ナル

(7) 視覚障がい者の理解(アイマスク体験及び介助体験)

二人一組でペアになり、一人がアイマスクをつけて、もう一人が介助を体験します。途中で交代し、双方の立場を体験します。視覚障がい者の気持ちになり生活上の不便を知ることで、介助の仕方、声かけ方法、基本的な知識を身につけます。今後の視覚障がい者との接し方について学び、視覚障がい者への理解とこれからの自分たちの活動を考えます。

〔対象〕 小学3年生以上

〔体験項目〕

- ・平地での歩行(適切な声かけ)
- ・階段の昇降
- ・椅子に座る



(8) 当事者による講話(視覚・聴覚)

福祉体験学習を深めるうえで、当事者の話や体験を聞くことはとても重要です。当事者の今までの体験や生きてきた歴史を知ることで、尊厳を育み、様々な「気づき」をもたらすことを目的とします。

〔対象〕 小学3年生以上

〔体験項目〕

- ・目の見えない人や耳の聞こえない人から、見えない・聞こえないということはどういうことか、どのような生活をしているのか、気持ちを伝えることの大切さなどの話を聞き、視覚障がい者や聴覚障がい者についての理解を深める。

※外部講師に依頼することになりますので、講師謝礼・材料費などの費用が必要です。講師謝礼・材料費は、福祉協力校助成金が利用できます。

(9) 福祉車両の使い方講座

三重ダイハツ販売株式会社のスタッフによる、福祉車両「タントスローパー」を用いた車いすの乗降体験を行います。介護する側とされる側を交代して体験することで、福祉車両の正しい使い方や介助方法を学び、介助を必要とする人の気持ちを理解します。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・車いすの押し方(声かけ)などの介助方法
- ・福祉車両の正しい使い方



協力 伊勢市ボランティアセンター地域貢献登録企業 三重ダイハツ販売株式会社

(10) 福祉の仕事学習セミナー 【オンライン可】

幅が広く、多くの種類がある福祉の仕事について、職種やそれぞれの仕事内容を紹介します。ほかにも、福祉に携わる人の体験談や福祉の仕事に就くための進路選択など、具体的な内容を講話から学び、児童・生徒の将来の職業選択の一つとして福祉の仕事を知っていただくためのきっかけづくりを行います。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・福祉の仕事の紹介(種類・内容・職種)
- ・福祉の仕事に就くには？(進路選択など)
- ・福祉施設で働く人の体験談(DVD「のぞいてみよう介護の仕事」鑑賞あり)
- ・ナゾときカイゴ探偵団



協力 三重県福祉人材センター(三重県社会福祉協議会)

(11)福祉の仕事、見て学ぼう！(福祉施設の見学)

伊勢市社会福祉協議会の福祉施設(高齢者施設、障がい者施設等)を見学し、利用者への支援や利用者が施設でどのように過ごすことができるのかなどを学びます。高齢者や障がいのある人への接し方だけでなく、福祉の仕事についても理解を深めます。

〔対象〕 小学3年生以上

〔体験項目〕

・福祉施設の見学

※見学する施設によっては、一度に見学できる人数が



限られる場合がございますので、ご相談ください。

(12)障がい者サポーター研修・簡単な手話体験【オンライン可】

障がいのある人を取り巻く伊勢市の現状や障がい者サポーター制度、障がい特性や障がいのある人が必要とするサポートについて、パワーポイントやDVD映像をまじえてご紹介します。また、あいさつなどの簡単な手話を学びます。90分程度の講座です。講座修了後、登録申込書をご提出いただくと、障がい者サポーターとして認定し、障がい者サポーターを証明するピンバッジをお渡します。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

・障がい者サポーター制度について知ろう
・あいさつなどの簡単な手話体験

協力 伊勢市健康福祉部 高齢・障がい福祉課



(13)フリースペース(憩いの場)で交流しよう！

障がいのある人もない人も、老若男女問わず、どなたでも自由に集える憩いの場「フリースペースわけん」。誰もが抱える葛藤を分かち合い、お互いを認め合う場の体験や、運営者による講話で、こころの不安や生きづらさ、様々な思いを抱えている人との関わり方について学びます。

〔対象〕 小学4年生以上

わ げ ん あ い ご
和 顔 愛 語

〔体験項目〕

- ・フリースペースわけん参加者との交流体験

協力 フリースペースわけん



(14)SDGsから考える伊勢の未来～今、自分たちにできることを考えよう～

将来を担う子どもたちが、様々な社会の課題と SDGsのつながりを知ることで、自分たちのまちで自分に何ができるのか、そして「誰一人取り残さない」、「一人ひとりが手を取り合い自分らしく生きるためにはどうすればよいのか」を SDGsの 17 の目標や課題解決の実例を通して学びます。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・「SDGs17 目標」って何だろう？
- ・課題解決のための活動紹介
- ・グループディスカッション(自分たちにできることを考えよう！)



協力 伊勢市ボランティアセンター地域貢献登録企業 河田フェザー株式会社

(15)認知症センター養成講座・認知症キッズセンター養成講座

認知症センターとは、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族をやさしく見守る「応援者」です。認知症を理解する人(認知症センター)が増えることで、認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちになります。この講座では、認知症についてや、認知症の人との接し方、認知症センターができることなどを学ぶとともに、相手を思いやる心を育むことを目的に実施します。講座を修了された方にはセンターカードをお渡します。

〔対象〕 小学4年生以上

〔体験項目〕

- ・認知症の理解
- ・認知症の人との接し方
- ・認知症センターができること 等

協力 伊勢市内の地域包括支援センター

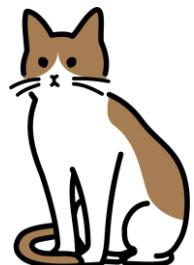


センターカード

(16)命の授業

保護猫活動を通して見える、近年の日本全国・三重県における動物愛護法や殺処分の変移、殺処分を回避するため環境省が推進しているTNR(地域猫)活動についてわかりやすく説明します。ペットを家族に迎えるにあたり、命に責任をもつことの大切さなど、子ども向け、大人向けにより時事的に内容を変えてお話しします。

協力 伊勢市ボランティアセンター登録団体 Ise Happy Cats



伊勢市ボランティアセンター



伊勢市八日市場町 13-1 伊勢市社会福祉協議会 福祉センター1階
TEL 0596-63-6370 FAX 0596-27-2415
E-mail ise-vc@mie.email.ne.jp